

赤石岳・荒川三山 山行報告

- 目的 地：南アルプス 赤石岳(3120m)～荒川三山(前岳3068m 中岳3083m 東岳3141m)縦走
- 日 程：平成20年7月26日(土)～29日(火)
- 天 候：26日晴れ 27日晴れ後曇り 28日曇り後晴れ 29日晴れ
- 参 加 者：参加者8名(男性4名・女性4名)
- 参 加 費：33,100円(山小屋3泊(1泊2食8,000円)・高速料金・ガソリン代・運転手謝礼・事故保険料)
- コースタイム：

椹島(さわらじま)～赤石小屋(泊)
26日9:00 14:55

赤石小屋～赤石岳～赤石・荒川分岐～荒川小屋(泊)
27日5:30 9:20～9:50 10:10～11:00昼食 13:00

荒川小屋～中岳～中岳避難小屋～東岳(悪沢岳)～千枚岳～千枚小屋(泊)
28日5:50 7:50～8:50 10:05～11:00 13:00 13:35

千枚小屋～椹島 10:30のバスに乗る予定だったが、満員で10:40発の臨時バスに乗る。
29日5:30 10:20

- 標 高 差：26日：登り1417m 27日：登り580m下り510m 28日：登り630m下り630m 29日：下り1575m登り86m
- 周辺情報：畠中第一ダムの手前に大きい駐車場あり。トイレあり。駐車場入口が送迎バス乗り場。
- 山行状況：1日目は椹島から赤石小屋まで約1400mの標高差をひたすら登るだけ。朝から快晴で暑さを警戒していたが、樹林帯の登りなので予想外に涼しかった。途中、オコジョの歓迎を受ける。全員よくがんばってほぼ予定どおり赤石小屋着。
- 2日目朝、赤石岳に笠雲がかかっていて頂上が見えない。何とか晴れてほしいと思いつながら出発。小屋を出て40分ほどで富士見平に着くと、雲表の彼方に富士山が顔を出してくれた。しかし赤石岳の頂上はまだ雲の中。富士見平から先はこぶ尾根の巻き道に入るが、この辺から高山の花を見かける。巻き道を歩いているうちに頂上付近のガスが消え、赤石岳が全容を現した。その大きさに感動。巻き道が終わると急な登りになるが、この登りはお花畠が次々に現れて楽しい。急登を何とか登り切り、稜線の分岐を左へ少し登ったところが赤石岳の頂上。ガスが消えたので展望が素晴らしい。荒川三山や聖岳も近くに見える。十分に展望を楽しんだ後、分岐に戻って昼食。その後、小赤石岳を越えて、広々とした大聖寺平に下る。途中で子連れの雷鳥を見かける。雷鳥が現れると天気が悪くなるといわれているが、やはりそうらしい。ガスが湧いてきた。でも雨に降られることもなく荒川小屋に到着。
- 3日目はガスで何も見えない中、荒川小屋を出発。荒川岳への登りの斜面は広大なお花畠である。シナノキンバイやハクサンイチゲが主であるが、その中にクロユリ、イワカガミ、ヨツバシオガマ等もあり、種類も豊富だ。登山道はお花畠の大斜面をジグザグに登る。このお花畠の素晴らしいには全員大感激。登り切ると荒川三山の前岳と中岳の間の稜線に出るが、稜線上はものすごい強風。吹き飛ばされそうなので、前岳はバス、中岳を越えて、中岳避難小屋に避難。しばらく様子をみたが、風は治まりそうもない。やむなく東岳に向けて出発。東岳の頂上に立つと、ようやく風も弱まってきたので、ここで早めの昼食。何も見えないので下山にかかる。ところが10分くらい下ると、突然ガスが消えて、北は甲斐駒岳・仙丈岳から南は聖岳まで、南アルプスのほぼ全山を見渡せるようになった。こんなこともあるのだ、と全員びっくり、大喜び。どうやら前線が通過したらしい。再び東岳に登りなおして、展望を楽しんだ後、千枚岳を越えて、千枚小屋に到着。
- 4日目は樹林の中をひたすら下るだけ。今回は3泊したので、ゆっくりと山と花を楽しむことができた。山小屋は混んでいるとの情報が入っていたが、それほどでもなかった。

11. 写 真 :

オコジョの歓迎



赤石小屋前で赤石岳を眺めながら乾杯



赤石岳頂上



荒川岳登りのお花畠



東岳頂上を出発する時はこんな天気だったが、

少し下ると突然晴れて、塩見岳、仙丈岳、甲斐駒岳、間ノ岳、蝙蝠岳などを眺めることができた。

